

鮭しやけなら死んでるひよこたち

守安 久二子

「鮭しやけなら死んでるひよこたち」

守安 久二子

概要

季節は秋。坂の多いどこかの街の広場。枯れ葉ロータリー。奥には立派であつたらう石柱の門。その先はかなりな下り坂で、池があるようだがそれ以外は何も見えない。

ムー（男）とフー（女）。彼らは、カラーひよこを売る流しのテキ屋である。平らな場所を捜す二人。下校途中の小学生を待っている。世間的には、肩身の狭い稼業だが、自分たちの経験がいずれ、その子らを守るバリアや匂いを嗅ぎ分けるリーダーなると信じている。何かを求めているようにも見える二人。「ひとづくり革命」の事業を受託し委員に任命されたことで、未来に繋がる希望を見いだした二人は、つもりの妊娠を楽しんでいる。公からの認定が、二人を後押しする。

簡単に門の中へ、入って行こうとするチャラ男を呼び止め、ひよこを見せる二人。カラーひよこをテキ屋のボー爺から盗み、死なせた過去を持つチャラ男。二人を認定しにくる理事長。理事長を捜してやってくるガリア夫人と佐川会長。その前を通る黄色いカバールのランドセルの見えない子供達。監査にやってくる監査員。

公認を後ろ盾にしてきたムーだが、監査員に反発し契約書を破棄する。チャラ男も戻り、ムーとトランクを取り合うが、ガリア夫人が加わって、チャラ男の生い立ちが明らかになる。理事長は、チャラ男、ガリア夫人を次々に任命し、自分を監査にきた監査員も任命し救済する。

見えない子供達が石を投げることに憤慨するガリア夫人は、やがて自分の絶望を語り、鮭なら死んでると、石を投げつけ「絶望の果て」の検証に旅立って行く。子らの石に、倒れていた佐川会長が、ゆっくりと服を脱ぎ始め、未来はないが予感だけがあるボー爺に生まれかわる。トランクを持って、「生きてただけや」と、チャラ男と共に、門の中へ落ちて行く。

枯れ葉を踏んで楽しむ二人、フーのお腹は、益々ふくれ幸せそう。空っぽのトランクを持って、チャラ男が門の中から戻ってくる。彼が、理事長から受け取りそこねた封書を渡すと、チャラ男は生き生きして、枯れ葉の中を泳ぐように去ってゆく。何かに任命されたようだ。空のトランクを持って、どこかへ去ろうとする二人、再申請は出来るが、受託契約は、もうどうでも良い。フーに出産の兆候が現れる。

トランクの中のカラーひよこは鳴くだけである。何も知らずに鳴くだけである。なされるがままの子供と色づけされて必死に餌を啄む大人。一匹が何千の命を生み、死んでいく鮭。生んだ絶望と生まれた絶望が、混ざり合い新たな命が生まれてくる。

一昔前、学校帰りの子供を相手に、どこかの陰でこっそりカラーひよこや消えるインクなどを売る流しのテキ屋のおじさんがいた。子供に家に帰って、百円持ってこいという彼らは一体、誰に何を売っていたのだろう。子供から受け取った百円玉で何を買い、どこに帰っていったのだろうか。不思議な記憶である。

了

*「ひとづくり革命」は、政府の人生100年時代構想会議における「人づくり革命基本構想」からイメージしました。

「鮭なら死んでるひよこたち」

守安 久二子

舞台

季節は秋。

戦前からの区画を無造作に上書きした街並。

その街のいくつかの坂道が混ざり交差する広場。

あちらやこちらからの上りや下りの坂をつなぎあわせたその場所は、アスファルトが歪んで、そこかしこ傾斜しているようだ。枯れ葉が丸く吹き溜まり、枯れ葉のロータリーの様にも見える。

ここを訪れる人々は、必ずどこかの坂を上るか下ってやってくる。

広場の奥には空襲を生き残ったであろう、朽ちかけた石柱の門がある。

門の奥は結構な下り坂である。その下には池があるようだ。

門の脇には町内の掲示板。

時折、チャイムと子供たちの声が門の奥の坂から、湧き上がるようにあふれてくる。

登場人物

ムー(男)

的屋(テキヤ)「ひとづくり革命推進構想審議会」免疫力向上事業受託事業者

フー(女)

ムーの妻 子供を望んでいる

理事長

永遠の任命権者

監査員

公僕

チャラ男

高校中退17歳(表記…チャラ)

ガリア夫人

母の会長60代(表記…夫人)

佐川会長

町内会長70代(表記…会長)

見ない子供たち

笑声やランドセルの揺れる音を発し、石を投げたりする

ボー爺(亡霊?)

的屋70代〜80代

*ト書き(ピヨ)表示は、トランクからの効果音を表す。

ムーとフーがやってくる

どこかの坂からカップルが歩いてくる。ムー(男)の手には大きめの革のトランク、背中には、布製の使い古したリュックサック。どこかとんちんかんな風貌の二人。それぞれの手に折りたたみの簡易な椅子。フー(女)のお腹は膨らんでいる。肩で息をする二人

ムー やつと着きました。ここですね。
フリー エー、最後は上りでしたね。

ムーは、荷物を下ろし、石柱の門の前にたたずみ感慨深く掲示板に表示されている多分謂れのなものを見ている。フリーは、門に持たれかかり、衣服の乱れ、髪の毛のほつれをなおしたりしながら、

フリー この枯れ葉は、(上を見上げて)桜でしょうか。
ムー 歴史深そうですね。(石柱をなでて)生き残っている。大丈夫ですか？
フリー はい、(ずり上がったスカートを下ろし)ほら。ね。
ムー えー、なら、良かった。
フリー いいところですね。とても素敵。風情があります。(周りを見渡し)この坂も。

門の奥、下り坂を覗き込むようにしているフリー

ムー (掲示板を読みながら)特別天然記念物のオオサンショウウオがアノ池にはいるみたいです。

フリー アノ池？ 真みどりですよ。

ムー 本当に？ 鯉や、金魚ならわかるけど。(門によじ登ろうと、身を乗り出し覗き込むように)オオサンショウウオっていうのは。

フリー アー、いけません、だめです、あなた。

ムー うん、しかし(名残押しそうに)ねえ、サンショウウオには足はあるのかしら。

首をかしげるフリー

門の奥を気にしながらも二人、見回して、

フリー どの辺りにしましうか。

ムー 真ん前という訳には、しかし、どこも少し、斜めに感じませんか？

フリー ここまでだって、坂ばっかりで。

ムー 本当なら、この辺りが、いいんでしょうけど。

二人、門から離れ、行ったり来たり、フリーは、椅子を広げてあちこち置いて、

フリー こうしたら、どうでしょう。下がっている方を背にして、上を向くのは、いささか不自然。ね、やもすれば後ろへひっくりかえります。でも、でっぱりを背に、椅子をこうしてこうすれば、ほら、良い感じですよ。

ムー いや、しかし、そうしたら、私たち、アサッテの方を向いてしまう。それに、傾いていると気持ちが悪くなりませんか。

ムーは、トランクを置きながら、傾斜を確かめているようだ。納得がいかない。

フリー どうでしょう。気持ち悪いですか？

ムー 気持ちが悪いと、気分が悪いですよね。

フリー アー、なんか、気分が悪いと死なないらしいですよ。

ムー エー、そんなバカな話はないでしょう。

どこかに置かれたトランクが倒れる。(ピヨ)

ムー、慌てて駆け寄り、また置くが、倒れる。(ピヨ)

絶望している。

フリーが、はっと思いついて、自分のお腹に入れていたひぎ掛けを出す。

フリー どうでしょう。これを下に。

ムー え？ ……。いいんですか？

フリー (深く頷き) まずは、大人である私たちが、しっかりしないと。

そりやそうだという感じのムー、ひぎ掛けを引いて、椅子をこそこそして、

ムー オー、すごい、ちょうどいい。

フリー ですね。

ムー まっすぐ座れて気持ちいい。

フリー ふふ、ほめれると、気分がいいです。

ムー あなたはいつでもいいことをする。やはり、あなたは。

フリー モー、お腹がへこんで、お腹がいっぱいになりました。つまり、あ、べ、こ、べ。

ムー それなら良かった。ここで決定。決まりです。ありがとうございます。

フリーのお腹へ手を当てて微笑む二人

二人は、掲示板の脇に椅子を構え座る。トランクを足下に横にしてほっとしている。周りをぐるっと見渡し、

ムー そろそろですか？

フリー そう、そんな気がします。ねええ？

ムー ん？

フリー お気づきになりました？

ムー ん？

フリー ねえ。

ムー まだかなあ？

フリー あなた。

ムー え？

フリー 知ってます？

ムー はい？

フリー ここは、最初に、私たちが立ち止まった場所ですわ。

ムー アー、なるほど。確かに、見渡せるけど、見当たらない、ちょうどいい場所。

こうなるようになっていたんだ。きっと。

フリー エー、最初から、こうするべきでした。私たちって自分勝手なだけですわ。

ムー そんなことはありません。つもりで、いられることほど、幸せなことではないんです。

フリー エー、私、すっかりそのつもりで、居ますもの。(へこんだお腹をさする)

二人ほほ笑み、沈黙

ムー 知ってます？

フリー はい？

ムー 人生は百年続くそうです。

フリー そうですか。

ムー この世の公式見解です。

門の奥から、チャイム、子供の声、椅子を引く音

チャラ男がやってくる

どこかの坂を下って一人のチャラ男が、調子よくやってくる。イヤホンをつけてたままスマホを見ている。二人の前を通り過ぎ、体を揺らして門の中に入って行こうとする。顔を見合わせ、首をかしげる二人。

チャラ男のスマホが鳴ったよう、門の入り口、電話に出てしゃべりだす。

チャラ ウイーっす、あん、オ、イエイ！ いいんスカ？ 頂くっす！！ いいっす

よ、で、どこ？ ハチ公？ 令和にハチ公？ OK！ 逆にOK！ みたいな！

今、クラブ帰りの、フロリダしたんスケど、いいスよ、りよ！

引き返してくるチャラ男。再びイヤホンからの音に体を揺らしている。ムーが、気づかれないように、トランクをわざと行く手に置き、その場を離れる。
トランクに躓くチャラ男(ピヨ)

チャラ 行って！ あ？

身を潜めじつと見ているムーとフー
イヤホンをはずし、屈んでトランクを眺めるチャラ男。知らん顔で、トランク
をすこし蹴飛ばす（ピヨ）。やはりというように、不信な感じでトランクを眺
める。二人、そこへ偶然を装い通りかかった風で、

ムー ん？ どうしたんですか？

チャラ あ、いや、何？ これ。

フー あ、ごめんなさい。私うっかり。（トランクに手をかける）

チャラ はあ、なんだ。ババア、気をつけな！

去ろうとして腹いせに再びトランクを蹴飛ばす。（ピヨ）

チャラ ん？

揺れるトランクを支えるフー

チャラ …ふん。

チャラ男、中指を立てて、去ろうとする。フーは、これ見よがしに、チャラ男
の前に、トランクを置く。立ち止まるチャラ男、フーを見る。

チャラ ……。

フー ごめんなさい。うっかり。私。

チャラ はあ？ 何だ、何だ？ てめえ、あん？

ムー 待て。

とても柄悪くすみ、割って入るムー

チャラ な、何なんだよ！ おめえら！ あん？

ムー ご婦人に向かって何だ、その口の利き方は。おい。

チャラ男に詰め寄るムーとフー。だんだんビビって後退るチャラ男。門を背に
追い詰められる。

チャラ （お手上げ）何、何、誰、誰、フオワット二乗のフー二乗。

フー 今、入ろうとしましたよね。この中、

チャラ は、はい？

ムー （門を指さし）何でだ。今、何で、入ろうとした？

チャラ 何、なんスカ。自分の方が何なんスカ。自分ちこの裏。この脇、抜けて、
ここ抜け道っス。

ムー ふーん。お前、ここ、出たり入ったりできるんか。

チャラ ク、クラブ帰りのフロリダで、バックレようとしたっけ、今から、ママ活、いいスつか？ (逃げようとするが、ムーに行く手をふさがれ)

ムー ママ活？

チャラ メ、メンバーのユーが、ダルダルで、キャンセルで、ミーつて。ウケルっス。

フリー あなた、ママ活つて、まさか。

チャラ ノーです。そこは、ノーで。飯オンリー。

ムー (3本指を立てる) なら？

チャラ ……いや。

ムー ふん、どうだか。

チャラ あの、自分行きたいんスけど。

ムー おい、ここは、何でこんなに坂だらけなんだ。

チャラ サ、坂表佃町(サカバツカチヨウ)っス。

フリー マー。(ムーと顔を見合わせる)

チャラ 正確には、坂表佃町、だらけ坂、バカ坂見付一丁目。

フリー そうでしたか、そういうことでしたか。

チャラ ウッソー。(走つて逃げる)

勢いよくトランクにつまづき転ぶチャラ男(ピ、ピヨ)

トランクに駆け寄るムー、チャラをにらみながらトランクを少し開ける。(ピ

ヨ、ピヨ)息をのむチャラ男

フリー ふふ、ごらんなきい、声がでなくなつちやつて、ふふ、ふ。

ムー こういうことだ。

チャラ あ、あの、

フリー やだ、もう、まさか、やめて下さい。

チャラ え？

フリー 私どもは、正当な、由緒正しいデショからのものです。

チャラ は？

フリー 宅の主人、委託契約結んでますの。

ポカンとするチャラ男

フリー つまり、そんな、あなたが思う、そんなこんな者ではございませんの。昨今、生きる力？ とでも申しましょうか、ね？ 問題になりますでしょ？ 子供の免疫力をね、

ムー そう、違う。特別なんだ。私たちは。そんな所そこの日銭稼ぎの輩とは違う。ほれ。

ムー、トランクを開けたり閉めたり、少し開けたり。(ピ、ピ、ピヨ)

チャラ あの。

ムー 何。

チャラ すごいっす。

ムー え？

チャラ これって。

ムー 何。

チャラ これって。

ムー そう。

トランクに抱き着くチャラ男、なりふり構わず泣きだす。
顔を見合わせる二人

ムー あの、困ります。

チャラ 下さい。

ムー え？

チャラ 下さい、全部。

ムー 何で。

チャラ 金っすか。

ムー 違う！

チャラ 金じゃなかったら、何なんすか。

ムー、チャラ男をトランクから引き離そうとする。しがみつくチャラ男

ムー 離せ。

チャラ 盗んだんだ！

ムー まさか。

ムー いい加減なことを言うな。

チャラ 触っちゃだめって。

ムー え？

チャラ ポケットに押し込んで、盗んで、逃げた。あの門くぐって、走って、逃げた。

ムー マー。

チャラ お金のない子は、触れない。

ムー はい？

チャラ あっち行けって、そうだろ？ そう言うんだろ？

ムー なんてことだ。そうか、君、あの時のあの子か。

チャラ ちがう。

ムー 確かに。

フリー は？

チャラ 違うオヤジ、もっとヨボヨボの。ボー爺って呼ばれてた。

ムー うん。

チャラ 知り合いか、あんたの親方か？ 元締め？

ムー さあ。

チャラ ボーっとしてるくせに、ガキが触ろうとすると、狂ったように怒って。歯が

黄色、爪が真っ黒、赤い腹巻きの。

ムー しらん、見当もつかん。

チャラ じゃあ、さっきのは、なんなんだよ！、「あの時のあの子」って！

ムー 私は、言うことにしている。「あの時のあの子か」

チャラ 意味不なんだよ、くそオヤジ！

ムー 「あの時のあの子か」からの「大きくなって」からの「すまなかった」で、大
体はいける。いつも。

チャラ チッ。ふざけやがって。

フリー どうするおつもり？

チャラ ハウマツチ。

ムー ホー、そうきたか。

チャラ あの時の無念を晴らす。十把一絡げに買ってやる。

チャラ男、チェーンを手繰って尻ポケットから長財布を出し、中を見て絶望す
る。財布を逆さに振るが小銭も出てこない。

チャラ MJK (マジカ)！ アー！

フリー 残念ですけど、私たちそういうことはしていませんの。

チャラ じゃあ、(泣きながら) じゃあ、何のためだよ。

フリー え？ ですから、私たちは、

ムー ビエビエ泣くな！

涙が止まらないチャラ男、嗚咽が続いているのを見かねて、

フリー もう、お願い、そんなに悲しまないで。

ムー 悲しみは、亡霊を呼ぶ、その辺に出てくんじゃやねーか？ ボー爺。

チャラ (しゃくりあげ) まっ黄色な歯。

フリー 真っ黒な爪？

ムー 赤い腹巻。

チャラ (掌を見つめて) 死んでたんだ。

フリー まあ。

チャラ ボー爺が、しょんべんしてる間に掴んで逃げた。あいつしょんべんしながら
追いかけてきやがった。

ムー ほおー。やるなー、ボー爺。

チャラ 畜生、思い出しちまった、オエツ、握ったまんまで走りやがって！

ムー ふーん、苦肉の策だな、「ジジイは急に止められない」

チャラ 信じられねえ。オトナが小便しながら走るか？ 普通。……必死で、逃げて

(しやくりあげ、門の奥を指さす)

ムー で？ 日が暮れて？

チャラ ……暗くなって。

ムー 見えなくて？

チャラ 落ちて、濡れて。

ムー 寒くて。

ムー 震えて。

チャラ 見たら(ポケットに手を入れ、掌を広げて絶望する)

ムー あーあ。

チャラ この手に、アー！(再び泣く)

ムー 似てたか、あれに。

チャラ ……。

ムー 握ったんだろ？ その手で。あれを。

チャラ てめえ(ムーに掴みかかる)

ムー あ、きたねえ、触るな！

ムーに振り払われ、トランクにしがみつくとチャラ男

ムー (チャラ男と絡んだ掌のにおいを嗅いで) あ、わかった。そうか、握ったのは

あれだ。あれだろ、握ったの。お前が、あれ、その時、池で。ほら、いるはずの、

そのはずの、あの、オオサンショウウオを。

チャラ やめろー。(泣き崩れる)

争いほど吹く風で、ずっと、一人、思い悩んでいたムー、トランクとチャラ男を見比べながら、

ムー さつき、あの、確か、あなた、何のためって？

チャラ くっそー、ペテン師軍団。ガキだまくらかして楽しいのかよ。

ムー (掌をズボンで拭きながら) 失礼なこと言うな！

ムー あのお、ですから、

チャラ ああ、そうだよ。何のために、こんなことやってんだよ！

ムー でも、もう、私、てっきり、

チャラ だますんだろ？ ガキを。

ムー は？ 違います！ 私たちは、れっきとした、

チャラ 小銭で、ガキに絶望を売ってるんだ。カラスプレー吹き付けられた死にか

けのひよこで飯食ってんだろ？ 買ったガキは、二、三日で絶望するんだ！

ムー やめて！ 何を言ってるの？ 私たちが売っているのは、未来の、

チャラ このひよこのどこに、未来があんだよ！ こいつらになんの罪があるんだ！
フー 手助けしているの。それはね、幼い頃に薄っすら感じた、不思議な体験、恐る恐る触れた汚れや傷が、見えないマクになって、いずれ、その子の、
ムー 色んな色を見せておくのさ！ 損得の色眼鏡をかけちまう前にな！ しかも、子供は大喜びだ。子供は好きで傷つくもんだ！

チャラ ……これで、俺は、

ムー お前は肌で感じたはずだ、入り組んだこの世の中の混沌を。命のはかなさを。絶望と背中合わせのお前の未来を。

チャラ ……傷ついて。

ムー 必要なんだ、悲しいひよこの鳴き声が。(校門の奥を指し) いるかも知れないオオサンショウウオが。追いかけて、落ちた、ヌルっとしたあの池の底には何がいた！ あの池で本当は何をつかんだ！

チャラ (自分の両手を見て、匂いを嗅ぐ、叫ぶ) アゝ。

ムー 思い出すんだ、あの匂いを、その手のひらの感触を！

チャラ男、首に下げていたクロスモチーフのネックレスを手に膝まづく。門に向かつて泣きぬれ何かに祈る。

フー (門の方を見やり) 大丈夫、あなたは、もう、絶対大丈夫。(やさしくチャラ男の頬をなでる)

うなだれるチャラ男、包み込むフー

ムー (仏頂面、フーをチャラ男から引き離し) おい、きさま！ マイナンバーもつとんか？

チャラ は？

ムー 一人に一つの十二桁。カード作った？

チャラ は？

ムー まさか、通知カードのままか？

チャラ ……。

フー まあ、大変、早くしなくては。

ムー マイナンバー制度は、利便性を高め、公正・公平な社会を実現する社会基盤だ。

チャラ 知らねーよ。ばーか。

ムー ふん。やつぱり。

チャラ ……。

ムー (馬鹿にしたようにフーに) 所詮、彼は……。

チャラ あ、……わかった、あんたら、あれか？

ムー 何だ。

チャラ 白っちゃけた顔した奴ばっかの、ほら、市役所の、

ムー あーん？

チャラ、あ、それとも、あれ、ポリ公か！ 良くない方の、ほら、ニュースに出てくる。

ムー ピョピョ野郎は黙ってる！

口を尖らせ、ピョピョと両手を胸の横でパタパタさせるムー、チャラ男を挑発する。

チャラ やめろ！ 税金どろばー、国家の犬！

ムー あほか、んな訳ねえだろ！

オモムロにもろ肌を脱いで入れ墨を見せるムー

驚き尻餅をつくチャラ男、トランクにぶつかると。(ピョピョ)

ムー ひよっこが！

ビビるチャラ男。トランクを持って逃げようとするが、うまく行かない。

フー こう考えるとわかるかもしれませんが。(諭すように) あのね、おいしい煮物をするには、灰汁を取り過ぎないことです。でしょ？ わかります？ 春野菜の灰汁は、命の息吹。だって、子供の未来以外に守るものなんて、この世にあります？

ムー ふん、どうせ、マイナンバーもほったらかしさ。

チャラ ボー爺だって、持ってねーよ、そんなもん。

顔を見合わせる二人。笑う。

ムー そうかお前は、ボー爺と一緒にか？

チャラ はあ？ ちゃうわ、

ムー へえ、お前はボー爺と違うのか？

チャラ な、何だよ。気味悪いことばかり言いやがって。えらそーに。チキシヨー。(後ずさりしながら) 金持って来るまで待ってるよ！

チャラ男、トランクに木練たらたらで、泣き叫びながら走ってどこかの坂を転がるように消える。

ムー ……ねえ。あの方って、

ムー まあ、ねえ、……これからの人だから。

二人、ゆっくり露店のセッティングする。

へこんだお腹を哀しくさするフー、ムーに寄り添う。

ムー、入れ墨のプリントシャツを脱いで、

ムー これを入れておけばいい。

フー、それを丸めてお腹に入れながら微笑む。
チャイムの音。子供の声。門の方を見やり、

ムー まだかな。

膨れたお腹をさするフー

ムー 張るの？

フー 少し。

ムー ねえ、アノ池、オオサンショウウオは本当にいるのかしら。

フー 見えない何か、しみこむことが大事なんです、きっと。(お腹をさする)

理事長がやってくる

透き通った風が吹く。空き缶の転がる音

フー あ、ほら。

門の奥の坂から、所々固まった長い髪と髭、よれよれの服にゴム草履のやせ細った男が歩いてくる。空き缶の入った黒いビニール袋を引きずっている。キラキラの大きい黒い瞳と口元のこぼれる笑みが、その風体に反して貴いかんじ。首からロザリオのようなクロスモチーフを下げている。

ムー 理事長！ わざわざすみません。

深々と頭を下げる二人。理事長、静かにもう少し笑う。そして、ゆっくり枯れ葉のロータリーを歩く。トランクを開けるムー。微笑む理事長。ムーが餌を撒くと一斉に鳴くひよこ。(ピヨピヨピヨ)

トランクの中を確かめ顔き、ゴミ袋から出した認定証を貼る理事長。ムーに同じくゴミ袋から出した封書を渡しゆっくり去る。空き缶を引きずる音だけが残り、消える。お腹をさするフー。微笑む二人

ムー (封書を広げて) 今回もお墨付きを頂いた。更新されました。ほら、道路使用許可も下りました。

フー ふふ。ほら(ムーの手を自分の腹に引き込んで) すごいでしょ？

ムー 大分、下りてきた？

ムー エー、始まりは、すぐそこまで。ひとつづくり？ 始まります。

門の奥からチャイムの音、教室の雑踏、机や椅子を引く音、子供たちの声

ガリア夫人と佐川会長、見えない子供がやってくる

ガリア夫人と佐川会長、どこかの坂を上ってくる。焦っているガリア夫人
ムーが、トランクを隠す。二人、耳打ち。うなずいたりしながら門の方を眺め
るフリ。ごまかして居る。

夫人 はあ、はあ、あの、スイマセン、ねえ、あの、今、来ませんでした？

ムー あら？ え？

夫人 ほら、こんな、なんか汚い、こんな、

ムー は？

夫人 会長さん、さっき、確かに、こっちに上って、

会長 はーはー(息が荒い)

夫人 モー、本当に、困るのよねえ、教育、衛生上、本当。イヤ。

ムー あの、何事ですか？

夫人 いえね、

会長 この方が、はーはー、いやー、この年になると、さすがに、

夫人 なんか、こんな、汚い、浮浪者、来ませんでした？ ホラ、なんか、汚い。

ムー いいえ。

夫人 変ねえ、確かに。

ムー どなたか、お探ですか？

夫人 やだ、ですから、浮浪者。

ムー だーれも来ません。

夫人 え？ あ、え、お宅たちは？

ムー 旅の者です。

会長 ほおー、そうですか、あれですか？ この、門、ですか？

ムー ねえ、本当に歴史を感じます。

会長 ええ、そうでしょう。で？ (イスに気が付き) スケッチかなんか？

ムー ええ、この辺がいいかなーって。場所を、

手で枠を作り、それっぽく振る舞うムー

会長 そうなんです。そこにもあるように、この門は、終戦の、

夫人 それでも、もうじき下校時間ですよ。

ムー それも、ありでしょうか。ねー、あなた。(頷くムー)

夫人 ふーん。(怪訝な様子)

ムーで、あの池、オオサンショウウオは、ご覧になったことあるんですか？

夫人 え？ いえ、私は。

会長 えー、実は、私はこの、あ、申し遅れました町内会長をしております。十年

前まで、(門を見やり) 校長をしております。

フー まあ、素晴らしい。

会長 私がいたころは、

夫人 もう、子供たちが出てくるというのに、困ります、ホントあんな。

フー 浮浪者ですか？

会長 ……本当にいたんでしょうか？

夫人 え？

ムー ええ、誰も来ませんでしたよ。ねえ。

夫人 あ、あたくしが？ 嘘を？

会長 いや、

夫人 え？ そうなんですか？

フー ーえ。

会長 いや、大丈夫です。今は、見当たらないんですから。チャイルドサポーターにも、ちゃんとラインしましたし。

ムーが、門の方を見て、嬉しそうに大きく手を広げて振る。

夫人 でも、学校の方にも、

フー あ、ほら、あれは一年生の皆さんですね。来た来た。

会長 あー、子供はいい。

ムー 出てきた、出てきた、黄色いカバーのランドセル。

見えない子供たちが、連なって門から出てくる。黄色いカバーのランドセルが揺れ皆の前を流れていく。わいわい言う楽しそうな子供たちの声。手を振ったりして。

夫人 ハイイ、みんな、お帰りなさい。

会長 私たちの頃は、赤と黒だけでした。お帰りー。

フー 黄色の下は、ほんとに色々。

夫人 ご覧になりますか？ ねえ、ねえ ちよつと見せてえ。

子供をキャツキャツと追いまわし、次々とランドセルの黄色いカバーを外していくガリア夫人

夫人 いいじゃありませんか、お見せなさいよ。

子供たちの奇声や歓声。ランドセルの揺れる音

会長 カラフルでしょう？ 今は。ハイ、お帰りー。

夫人 ふふ、これは、パールラベンダー。家の孫は、ピンクキャンディ。

ムー 必然なんでしょうな。

夫人 え？

ムー なんでも大人の好きにさせるから。

夫人 (次々と黄色のカバーを外しながら) 何を？

子供たちの逃げ惑う笑い声が徐々にピヨピヨ音にスライドしていく。佐川会長、あまりに、はしやぐガリア夫人を気にして、

会長 もう、ね、やめましょ。奥さん。さあ、ほら、ね。

夫人 はーい、またねー。あー、楽しい。

会長 ……でも、これ、なんか、あれ？ 縁日とかで。色とりどりの、ほら、いましたよね。

フー え？ (とぼけて) あ、ひよこ？

ムー あ、(二緒にとぼけて) カラーひよこ！ あった、あった。色んな色の。

夫人 ハイ、みんなー。へんな大人には気をつけてねー。

ムー は。は。は。

夫人 ほ。ほ。ほ。

会長 お宮の露店に子供たちが、群がってました。目をキラキラさせて。

夫人 触りたくて、欲しくて、欲しくて。

フー まああるいオテテをぎゅつと、百円握って、ね、(愛おしそうにお腹をさすり、流れるランドセルを目で追う)

夫人 あら？ 確か、二百、

会長 色んな色の子供たち。オイ。オイ。ホレ。はい、まっすぐ帰るんだよー、ハイ。

夫人 子どもたちに何もなければそれでいいんです。

会長 まあ、世の中色んな人がおりますから、は、は、は、は。

ムー 本当です。流石、元、校長。は、は、は、は。

会長 まあ、いつのとおり、大人は、子供を見守り続けるということ、大丈夫ですよ。

ムー ええ。

会長 で、オオサンショウウオですが、私たちのころは、

夫人 あ！ あれ、

会長 え？

夫人 ほら、あれ、いました！ ほら、あれ！ あそこ！

会長 え、えく？

夫人 あ、あなた、ちよっとー、待って！ 会長、ほら、

ガリア夫人が、佐川会長の服を引つ張り、理事長を探しにどこかの坂を下りていく。

フー (二人を見送りながら溜息) 行ってしまいました。

ムー ま、もう、過ぎた方たちですから。

フー ……ねえ、どうしてなんですか？

ムー え？

フー どうして、お年寄りには隠すんですか？ 私たちのお仕事。

ムー 仕様書に書かれているんです。

フー 私、とてもいいことだと思っんですけど、

露店のセッティングを再びしながら、

ムー 年寄り相手だと、こちらの説明の労力に理解の程度が見合わないんじゃないですか？ 出鼻をくじかれるっていうか。

フー わざわざ。年まではつきり書かなくても。

ムー 私たちの業務は、革命ですからね。ひとづくりの。

フー 年齢が関係あるのでしょうか。

ムー 彼らはね、何も生み出さない人たちです。

フー え？

ムー 鮭ならね。いくらを産んでね、既に、溶けて、川の養分になってるはずなんです。彼らは。

(後から一人遅れてきた見えない子供に) ホイ、みんな行ったヨー。ハイ、さよなら。気をつけてー。

見送るムー

ランドセルの音が聞こえなくなつて、

ムー と、いう位置づけです。そんな人に似合わないですよ。革命は。

フー そうですか。

ムー 若さむしろ、幼さがなすのです。それに、地下で熟成したものが地上にあふれて、万人に行き渡るんですから、いずれは、彼らもその恩恵は受けるんじゃないですか。

フー あ、それで、あの人たち、この世で、百年生きるんですね？

ムー ですね。

トランクが倒れる(ピヨ)

顔を見合わせる二人。肩をすくめるムー

監査員がやってくる

走りながらどこかの坂を下ってきた監査員。手には、雑多に書類を挟んだボード。そのまま止まらず門にぶつかると書類が散る。眼鏡が落ちる。

監査員 いたた。

あつげに取られる二人

監査員 (門に向かって) 気を付けなさい！ 来るなら来るってなんで報告しない。

あつげで僕が、とばっちり、

フリー はい？

門をじつと見つめる監査員。きよろきよろする。

フリー はい？

監査員 (眼鏡をかけ直す) あ、

ムー ……。

監査員 (散らした、書類をかき集め) 下りは、得意だったんですが、はい、迷いました。ここのところ忙しくって。変なんです。もしかして、ここ、上ったのでしようか？ (膝小僧をこする)

フリー ?

監査員 取り乱しまして(髪を整えコホンと咳払い) 申し遅れました。私、(首から下がっているネームストラップを見せる) こういう者です。改めまして、第3分科 会 路上部門、受託事業者様で間違えないでしょうか。

ムー、不機嫌にトランクを指さす。監査員、トランクに貼られた認定証を確認して、

監査員 ダブルA！

フリー (得意気に) ええ。

監査員 業務の遂行はなされましたでしょうか？

ムー ……。

監査員 はい。当然、速やかな業務の遂行がなされたと推量しております。

ムー 見ない顔だな。

監査員 はい。さっき、数分前の、秋の異動で。

ムー 前任者は？

監査員 多分、下りを上りと間違えたと聞いています。それで私が急遽。

ムー ……。

監査員 失礼します。

トランクを開けようとする監査員。開かないトランク。ムーが渋々開けると、ひよこが一斉に泣き出す。(ピヨピヨピーヨ) 監査員が覗くと泣き止む。ひよこの数を数え、書類に記録する監査員

監査員 (書類を見て) あれ? 一緒です、減っていません。これは?

トランクを閉めるムー

ムー 特には。

ふと天を仰ぐ監査員

ツラれて、二人も天を見上げる。

監査員、おもむろに、

監査員 不履行? ですか?

ムー まさか。

監査員 (手に持った書類をめくり) 受託業者は、契約に基づき公正誠実に業務を遂行するとともにその成果の保持に勤めなくてはならない。と委託契約書に記されています。

押し黙る二人

監査員 (コホンと咳払い) 「2020 ひとつくり革命審議会推進構想本部」内に設置された、「免疫力向上委員会・第3分科会」の路上部門が委託した業務の実施、遂行が、認められないのですが。

押し黙る二人

監査員 先程、実施対象者である子供たちの声が聞こえていましたけど。

ムー あの、

ムー 黙って。

監査員 第12条、契約の解除、正当な理由なく業務に着手しないときは、

ムー あの、

ムー いいから。

ムー あの、言い訳みたいですけど。先ほどは、ご年配の方たちがいたものですから。

監査員 確かに、委託仕様書第9条、第1項には、この業務は、近隣住民等の目につくことなく、速やかにコッソリ遂行するものとし、当該年度初日において満60歳以上の住民カッコ（多分高齢者等）カッコ閉じ、については、決して、

ムー 彷徨うボンはおらんかなー、めんこいお嬢ちゃんはいませんかー。

監査員 あくまでも、ナチュラルにお願い致します。

ムー 実施対象者は、まだ、来ません。
監査員 先程の集団は、先代一隅のチャンスだったのではないのでしょうか。ノルマ達成の。

ムー え？ ノルマがあつたんですか？

ムー 聞いてない。

監査員 はい。どうぞご確認ください。今期から、追記されております。当然、不履行の場合は、違約金が発生致します。その旨も。

封書を取り出し二人内容を確認する。

監査員 「2020ひとづくり革命審議会構想推進本部」内に設置された、「免疫力向上委員会・第3分科会」の路上部門の委託事業において、その事業対象は、12歳以下の子供に限定されています。また、満60歳以上の住民カッコ（多分高齢者等）カッコ閉じ、については、業務内容自体ほんの一滴すら公表することを禁止します。奥様、あなたのおっしゃったことは、ある意味正しいのです。

ムー はい。ありがとうございます。

監査員 この事業は、世の威信をかけております。斬った貼ったの大勝負に出たも同然ですから、なんの見返りの無い委託など、する訳がありません。

ムー はい。

監査員 ですから、「ひとづくり革命」事業の受託者であり、免疫力向上委員でもあられます貴殿において、私共も最大級の期待をして居るところです。

ムー はい、ありがとうございます。頑張ります。（お腹をなでる）

監査員 で、どうです？

ムー ？

監査員 あちらに一人。

じつとこつちを見ている遅れてきた見えない子供を指す監査員

ムー あ、だって、あの子は、

ムー まだ、早い。黄色いカバーをしている。

監査員 （猫なで声）はーい、坊や、こんにはー。

見えない子供が、寄って来ようとする。ランドセルの揺れる音、ゆっくり近づく。

ムー (監査員を制して) 来るな、帰れ!

止まり、走って逃げる子供。遠のくランドセルの音。止まる。
監査員、凄い早さで、書類に何か記録する。

ムー 一年生は、対象外です。ずっと、そうしてきた。

監査員 同条、第9項、その責めに帰すべき事由により、履行期間内に業務が完了しないと明らかに認められる場合は、

ムー やめろ! (思わず監査員の胸ぐらを掴み、離す)

監査員 なるほど。暴力的、反社会的な、

ムー 理事長の許可は得ている!

監査員 更になるほど。

監査員、凄い早さで、書類に何か記録し、判を押してる。

フリー あの、

監査員 何でしょう。

フリー 私たち、どうなるんでしょう。

監査員 あちらの本部に提出する監査報告書を作成しているところです。

フリー それで?

監査員 委託契約書第365条、第2項、第1号、監査員は、乙、これは受託事業者、すなわちあなた方です。乙の業務の執行を監査し、法令で定めるところにより監査報告書を作成する。はい、今、作成しています、と。

ふと、手を止めて、天を仰ぐ監査員

つられて二人も何があるのだろうと天を見上げる。

次に、足元の枯れ葉を確認するように踏む監査員、ツラれて、二人も枯れ葉を踏んでみる。音を聞く二人

枯れ葉を踏み続ける監査員。また天を仰ぐ。

ポカンと見ている二人

監査員 (書類をかざし) こちら、60歳以上の住民に対する対応は、厳密に記されてますが、実施対象者は、12歳以下としか記されておりません。先ほど、貴殿は、一年生は、除外すると言われました。世の上級試験を通った私が、受託事業者様にお尋ねするのも、何なのですが、あ、これは、決して差別的な意味ではありませんので、不愉快な思いをなさらぬように。あの、何か、別途、私の知らないところで、特別な通達でもなされたのでしょうか? 公僕の世界ではよくあることなのです。ですから。それとも、人事委員会が何か言ってきたのですか?

ムー (あきれて) 黄色いからだよ。

監査員 パードン?

フー あの、ランドセルが、まだ、黄色いからです。

監査員 ……なるほど、わかりました。つまり、色の識別、イメージから来る情緒的、感情的、勝手的な、指針ですね。報告書に記載致します。いや、冷や汗ができました。人種差別の方々かと。

ムー もう結構。お引き取りください。経験上、通学に慣れない一年生は路上でのリスクが高い。何回、認可通つてると思ってるんだ！しかもダブルAだ。トランクの中味は、きっちり子供たちに還元して、仕様書に定める関係書類は理事長に提出します。

フー 前日も特定記録、いえ、確か宅急便、カラスの。送りました。毎回、理事長の受領印をいただいています。

監査員 はい、むしろ、それが問題なのです。

フー え？

監査員 あなた方は、ご存知ないでしょうが、今期の異動、つまり、私の、監査員の監査員たる所以は、むしろそこなのです。

ムー どういうことだ。

監査員 あなた方と言うよりは、むしろ、任命権者である理事長にあちらの本部から疑義が掛かっているのです。

フー え、そうなんですか？

監査員 です。

ムー 聞き捨てならん。あの方が、何をしたと。

監査員 彼は、あらゆることを承認し、あらゆるものを認定、任命してきました。

ムー 素晴らしいじゃないか。

監査員 はい、永遠過ぎたのです。永遠にしすぎたのです。理事長は。

ムー さっぱりわからん。

監査員 認め過ぎです。永遠に。定款第60条 第1項、第4号、監査員は、理事及び使用人に対して事業の報告を求め、業務、財産の状況を調査することが出来る。

フー どういうことでしょう。

監査員 どの世にも、永遠に続く、費用対効果の問題です。本部のターゲットは、任命権者である理事長、ご本人なのです。罷免の案件、内緒ですが、裏議案に上がっています。今期総会において裏議案が、表議案です。

ムー 私たちは、理事長に救われた。

監査員 それは良かった。

ムー ……世間知らずで、いきがるだけの、無知で愚かな、ひよっこが、

監査員 お言葉ですが、彼は、誰でも彼でも救い過ぎてこうなったのです。自らが、ムー 理事長に認めて頂き、こんな自分も社会とつながる、次につながれると、希望をもったんだ！

お腹をさすりながら、じつとり、監査員を見つめるフー

監査員 (コホンと咳払い) 理事長が本来遂行すべき職務は、委託先を救うことではありません。

ムー ……。

監査員 事業の運営管理です。

天を仰ぐムー、つられて、監査員も天を見上げる。

心細さ気なムーも天を見上げる。

ムー (深くため息) そうでしたか。わかりました。

突然、ムーが、封書を取り出し、破りだす。それを散らす。

ムー あ？ え？

ムー そういうことなら。恩を仇で返すようなことは出来ません。

監査員 これは、つまり、契約放棄、ということですか？

ムー 辞退です。

驚くムー 再び天を仰ぐ監査員

ムー ……。あなた、せっかく、更新、

ムー ……。

ムー やめるんですか？

ムー はい。

監査員 (間髪入れず) 傍受了解。

明らかに平常心を失って、必死に書類に何か書き出す監査員

監査員 ああ、また、やってしまいました。私はしゃべり過ぎました。時間が迫っているというのに。困りました。お陰でとても忙しくなりました。早急な対応を。ああ、いつもこうなのです。そうです。自分で自分の首を絞めてしまう。忙しい、本当に忙しい。天を仰ぐ一瞬すら、もどかしい。です。

枯れ葉ロータリーをぐるぐる回りながら、必死に書類に書いたり判を押したりしている監査員。それを横目に、

ムー あなた、

ムー たいしたことではありません。

ムー ……でも、

すねたように、ムーに背をむけるムー。天を見上げるムー。

ふいに、

ムー オヒケーナスツテ。(ふざけて仁義を切る) 元は、転びの的屋家業。天神様の西の市で、シヨバ割にあぶれ、寝床にも事欠いたあの日、理事長さんに拾ってもらったこの身です。

トランクが倒れる(ピヨ)

フリー ……。

ムー 大丈夫。…何者でもなかった元の私たちに戻るだけです。(トランクを抱きかかえる)

フリー (深いため息) 二人共若かった。いつもお腹をすかせてました。

ムー 毎日、ただ、ただ、必死で、

フリー あの頃は、先のことなんて、何にも、

ムー 理事長のおかげで、なんとかここまで。これの(トランクを軽くたく) (ピヨ)

ヨ) 意味を知りました。

フリー ……でも、どうするの？

ムー なに、一介の露天商に戻るだけです。かまうもんですか。こちら辺り、十八町四方、庭みたいなもんです。

フリー もしかしたら、また、遠のくのでしょうか。(お腹をさする)

ムー このご時世、無認可の保育園だって重宝されています。かえって自由になりますよ。希望は持続可能です。

フリー ……。

ムー ……少し、経済的には、ロスしますけど、

フリー がしやがみ込む。

ムー どうしました？

フリー なんかキュツと。

慌てるムー。椅子に座らせる。

相変わらずブツブツ言いながら、書類を作成している監査員

監査員 (聞こえるか聞こえないかの感じで) 卵を産まない雄のひよこは、シユレットダーされて産業廃棄物、冷凍されて猛禽類の餌としてアマゾンで売られるのがいいところ。です、です、この事業は、厚労省的にも、農水省、経産省的にも、(何かしらブツブツ、頭を搔く)

監査員のリズムカルに枯れ葉を砕く音に耳をふさぐフリー

監査員を止めようとするムー、その手を振りはらって、

監査員 確かに、乙は、小銭の代償を得るが、それも事業本来の対象者に自らの手を汚すことによる免疫の（ブツブツ）

ふいに、小さい運動靴が片つぽ、ポーンと枯れ葉ロータリーに飛んできて監査員に当たる。きよとんと、足を止める監査員

監査員 何だあ？（運動靴を拾い上げ）あー、もう。また、書類が増える。

ムー（舞台袖の見えない子供に）君、

監査員 これは、仕様書第33条、第三者による損害の発生をもって、乙が甲の、業務の（頭を掻きむしる）あー。

ムー ……君？ 蹴ったのか？ ん？ 石を？ 君が？

監査員（見えない子供に強い口調で）気を付けなさい！ なんで、石なんか、

ムー ずっと？ ん？ ずっと、居たのか？

監査員（段々小さく）……もって、乙をして、もって、甲は……。

運動靴を持って、ムーが舞台袖に消える。見えない子供に靴をはかせてやりながら

ムー（声）ほら、こうだ、ん、少し大きいんだな、ん、はい。よし。……石はな、もつとこうして。そう、ほら、そうだ、そう、やった、蹴れた。それなら、脱げない。

ランドセルの揺れる音と一緒に小石の転がる音

見えない子供に向かって手をあげながら、ムーが舞台上に戻ってくる。

フリー あの子、ずっと？（涙があふれる）いてくれたの？

監査員（ぼそぼそと）乙は、甲で……。

ムー（見えない子供に）さあ、もう行きなさい。

転がる石の音とランドセルの音が遠のいていく。

ムー、追って行こうとするフリーを引き留める。

ムー 申し訳ない。自分のわがままで、君に、

フリー 離して。行ってしまおう、あの子。きつと私の、

ムー あの子は、違う。体に障る。

フリー だって、この子。

泣きながらフリーは、お腹から落ちそうになるシャツを押さえる。トランクが揺れる（ピヨピヨ）。慌てて押さえるムー

監査員、トランクとフーを交互に見て、

監査員 ああの、

フー ……。

監査員 ……苦しいのですか？

フー (少し驚いて) え？

監査員 ああの、つまり……苦しいのでしょうか？

フー ……(涙声) エー。とても。

監査員 ……。

フー ……不安なんだと思います。(お腹を押さえる)

ムー ……。

フーのお腹をじっと見つめる監査員

天を仰ぐ監査員 二人もツラれて、天を見上げる。

涙を拭う監査員、何枚かの書類を引きちぎり、破り捨てる。

書類は枯れ葉に混ざり込み、踏みつけられる。

ムー 何をしている。

フー ? どうされたの？

監査員 ……私も……です。会えない我が子を思ったのです。忙しいのです。実は、不安なのです。とても、苦しいのです。本当は。

ボードの書類をめくり、一枚をムーに手渡す監査員

ムー (紙を広げて) 様式第4号。「再交付申請書」(監査員を見る) 契約書類等を毀

損または滅失等した場合等の場合、

フー ……あなた、

監査員 (何も見ずにそらんじる) 第999条、その他、本契約に定めのない事項、

または疑義が生じた場合は、必要に応じて、甲、乙協議して定めるものとする。

ムー (声を重ねて) 重ねて、その履行に当たって知り得た秘密を外部に漏らしてはならない。

じつと、見つめ合う三人

ムー ……。預かります。

ホッとした様子のフー。黙って書類を見つめるムー。

監査員 公僕は、忙しいのはイヤなのです。苦しいのです。頭が変になりそうです。いや、既に。

フー 知っています。
ムー ……。

監査員 あ、そちら、申請日は、明日以降でお間違えの無いように。

無表情で、申請書を胸ポケットにしまうムー。

監査員 (フーのお腹を暖かく見て) 楽しみですね。

フー はい。

監視員 大変！ もうこんな時間です。日が、あちらの門へ落ちる前に、理事長をお連れしなくては。総会の開催が迫っています。

フー 理事長さんは、今期で、解任になるのですか？

監査員 こちらの任期は、まだありますが、何れにしても今事業年度、定時総会の終結の時まで。おそらくは。たぶん、ええ、私、ここで、待ち伏せ致します。自分も家族の居る身です。任務は放棄できません。公僕は、存在を消すのは、得意なのです。ハイ、とても、得意なのです。

石と封書と絶望と

掲示板の裏に隠れる監査員、息を潜める。

息を切らして、やってくるガリア夫人

慌てて、トランクを隠すムー

夫人 もう、いや、こっち、来ました？ はーはー。

フー あ、あら、大丈夫？ です？

ムー え？ 誰がですか？

夫人 ですから、

ムー あー、浮浪者？ いたんですか？

夫人 えー、確かに缶の音が、こっち、ねえ、だって、袋、引きずってましたでしょ？ 見えたんです。ほら、何か、汚い、ね、来ました？

ムー さあ。

夫人 石、あの方、

ムー え？

夫人 だって、あの方、もう、全然だめ、「胸が、」なんて言って、もう全然。

フー 会長さん？

どこかの坂の下、登ってくる佐川会長に手を振りながら

フー 大丈夫かしら、何かお顔の色が

夫人 私、浮浪者、マルナカの駐車場で、見つけて。

ムー ほおう。

夫人 カラス、肩に乗せちゃって、にこにこしちゃって。

フリー まあ。

夫人 さっきの子たち、もっと、大きい子たちも、一緒になって、寄っていくもんですから、私、もうどうしようかと。

フリー どうしてですか？

夫人 え？

フリー 寄って行ったら？ どうして？

夫人 は？ あなた、何を。だって、石、

佐川会長、どこかの坂からやつとの感じでたどり着く。

会長 はーはー、もう、無理。

ムー 大変ですねえ。

会長 はー、はー、しかし、危なかった、あなた。

夫人 え？ 私？

会長 いや、ほれ。ちがった、やっぱり、ね、ほら。

夫人 え？

会長 石が、ね、あなた。

ムー 会えたんですか？ その、

夫人 あの、ですから、私？

急に湧き上がる子供たちの笑い声と共に、いくつかの小石が飛んでくる。

ムー こら！ 何してる！

そのひとつが佐川会長に当たる。

会長 うっ。

佐川会長が胸を押さえて、その場にゆっくり倒れていく。

密かに写メをとる監査員

ムー ……。

夫人 だから、あの、石投げたんです。

フリー え？

夫人 (倒れる会長を目で追いながら) ですから、さっきの子たち、他の子も、一緒に、

フリー あの。

夫人 子供が。

フリー 誰に？

夫人 彼に。

フリー え？

夫人 浮浪者。

フリー まあ。

夫人 そりゃ、ね、あなた、私も、だって、不潔でしたから、ね、そりゃ、でもね、あの子たち、石を。

フリー 誰に？

ムー (フリーに) 大丈夫？

フリー (夫人に) ああ。

夫人 ですから、石を。

枯れ葉の中、横たわる佐川会長

確認して首を振るフリー。お手上げのムー

枯れ葉に横たわる佐川会長をじっと見つめるガリア夫人

夫人 会長！

枯れ葉の山に覆いかぶさるガリア夫人

夫人 (急に、半狂乱) 誰か！ 誰かー！

再び湧き上がる子供たちの笑い声。いくつかの小石がロータリーへ飛び込んで来る。

ムー 人に向かって、石を投げるんじゃない。

フリーを避難させようとするムー

夫人 (立ち上がり、天にも届く大声) オヤメナサーイ！

仁王立ちのガリア夫人。驚く二人。子供の声と石が止まる。

夫人 (息を整え) この方は、この土地で生まれ育ち、真面目に倓しく暮らし努力し校長に、町内会長にまでなったお方です！ 地元の名士、まさに彼のことです！

どこかの坂からチャラ男が石を蹴りながらやって来る。

密かに写メを取る監査員

夫人 その彼が、街のあらゆる坂を知り尽くしたこの彼が、今ここに、この石によつて倒れました。

チャラ (ロータリーを回りながら、指笛) ブラボー! (石を遠くへ放り投げる)

夫人 ……。

ムー 戻ったのか。

チャラ 金持ってきた。

ムーの足元、財布を放り投げるチャラ男、小銭がいくつか散らばる。
構わず続けるガリア夫人。

夫人 地域のため、子供たちのため、全てを捧げてきたお方です。かく言う私も、結婚して子供を育てあげ、夫の親も看取りました。仕事も持ち、マイナバーだって

動きを止めるムーとチャラ男

チャラ カード?

夫人 そうです。持ち家で、町内会にもスポーツジムにも通い、夫は高額納税者。婦人会、母の会ボランティアで子供たちの、

チャラ よこせよ。

夫人 はい?

チャラ よこせ!

ムー やめろ!

二人がトランクの取り合いを始める(ピ、ピ)トランクの回り、石をかざしてムーを威嚇するチャラ男。石を投げ合う二人。トランクにも当たってしまう。
(ピ、ピ、ピ)

夫人 あー、もう!

トランクを奪い取るガリア夫人、その上にドンと飛び乗る。(ピーーヨーー)

ムー・チャラ オイ!

夫人 (地鳴りのように怒鳴る) オダマリナサーイ!

ひよこの鳴き声がピタリと止まる。

密かに写メをとる監査員

チャラ どけよ!

夫人 誰よ、あんた。

チャラ ババア、どけって。

夫人 何、ちよっと、誰か。

チャラ るっせー、返せよ、

夫人 ランボーな、どこの子？ 親は？

もみ合う手を止めるチャラ男。

夫人 誰よ、全く、どこの町内？ 親呼んでらっしゃい！

ムー そうだ呼んでこい。

チャラ いねーよ。

夫人 ……。

チャラ ババア！ 親なんかいねーんだよ！

フー まあ。

夫人 ……。

ムー へえ、お前、テテなし子か。

フー ちよっと。

チャラ かあちゃんが男と逃げて、オヤジは俺を捨ててどっかに消えた。ぼけたばあちゃんに育てられました！

夫人 ……。

チャラ 猫とおんなじメシ食わされた。メシってそういうもんだと思ってた！

夫人 ……。

チャラ 満足か、どけよ。ババア。

夫人 ……。

ムー 奥さん、つまり、彼は、貧困層、生活弱者、可哀想な生い立ちです。

フー あの、ですから、とりあえず、降りて、それ、

夫人 あなた、市の福祉課に、

チャラ ババア、どけ！

夫人 何！ さつきから。

チャラ (もみ合いながら服を積まんで) グッチ？

夫人 は？

チャラ グッチ、グッチ、グッチ！ そうだよ、あんたらの好きな恵まれないお子さまです！ ボランティア？ ひとづくり？ やれよ、充実感味わえよ！ 不幸な俺らがあんたら救ってやってんだろーが！

ガリア夫人を突き飛ばすチャラ男。トランクにしがみつки開けて中を確認する。(ピョピョ) ひよこに目を見張るガリア夫人。

チャラ よかったあ。(トランクを閉めて大事そうに抱える)

腰が抜け、呆然としているガリア夫人。

チャラ 未来のため？ ざけんじゃねーよ。よりよく生きようなんて、生きるのが当たり前のお遊びだろーが！ 生きるのが、当たり前のお奴らに、俺らの、こいつらの気持ちがわかるかよ。

フーがいくつかの拾った百円玉をチャラ男の手に握らせる。

チャラ この百円玉で売り買いされるんだ！

小銭を拾いながら、財布を拾い上げるフー、それをもぎ取って、

チャラ 触るな！ おれの金だ！ くっせー香水つけたババア相手に稼いだ金だ！

これで寝たきりのばあちゃんに飯食わせんだよ！ これでおむつ買うんだよ！ しわしわの手で、ほっせい指で、つまんだ！ この百円をよ、つまんで、言うんだ、ポー、好きなもん買うておいでって！ (号泣) やれよ、地域活動！ ボランチイ、ア(涙で言葉にならない)

顔を見合わせるフーとムー

透き通った風が吹く。空き缶の転がる音

フー あなた。

門の奥の坂から、理事長がやってくる。

益々、身を潜める監査員 深々と頭を下げる二人 理事長、静かにゆっくり枯れ葉のロータリーを歩く。ポーと見ていたチャラ男、慌ててトランクを開けようとする。首をふり、微笑む理事長、ゴミ袋からチャラ男に封書を渡そうとする。

思わず飛び出す監査員

監査員 理事長！ 駄目です。

理事長の手から封書を奪って放り投げる監査員

チャラ え？

微笑む理事長、ガリア夫人に迫る。びびり後退るガリア夫人 ゴミ袋をこそごそしながら、迫る理事長 割り込む監査員

監査員 理事長！ 行きましょう！ 日が暮れます。

微笑みながらゴミ袋をこそごそする理事長

監査員 駄目です。理事長、これ以上はお控えください。

ゴミ袋から出した封書をガリア夫人に渡そうとする理事長
遮る監査員

チャラ男が枯れ葉の中、捨てられた封書を捜している。

ムーが、監査員を押さえ込み、理事長がついに封書を渡し、受け取ってしまう
ガリア夫人

監査員 あ、もう。(がっくりと膝をつく)

怯えるガリア夫人、震える手で、封書を広げ、やがて読みふける。

監査員 もう、また。理事長。もう無理です。私は見てしまいました。日が落ちる前に。落ちたら総会が、始まります。急いでください。私も監査員の監査員たる職務をこれ以上、

監査員が、手を引き門の中へ誘導するが、立ち止まる理事長

監査員 ご理解ください。理事長、私だって辛いのです。私にだって、ひよこが（ハッとして）…もとい、家族が居るのです。（泣き顔）

見つめ合う二人

監査員の頭を暖かく、やさしくなでる理事長、ゴミ袋から、ネームストラップを出し、監査員のそれと掛け替える。微笑む理事長 ネームを見る監査員

監査員 働き方改革、推進、してもらおう委員。

思わず天を仰ぐ監査員 すごい早さで何かの書類を書きだす。

ムー 行くのか。

監査員 ええ、救われました。（門の奥を指し）下りを上ってみようと思います。

頷くムー

監査員 監査報告、廃棄処分申請書、様式第0号、ご決裁願います。

書類を受け取り微笑む理事長　ゴミ袋に入れる。
空き缶の転がる音だけが残り、二人、門の奥の坂へ消える。

沈黙

一人、ポケットから「再交付申請書」を出し眺めるムー

ムー ……。

不気味な物音と息遣いに振り向くムー。

夫人　（荒い息遣い）どうだ、どうだ、これで、どうだ！

突如、石を拾って、会長の横たわる枯れ葉の山に投げつけているガリア夫人

ムー　え？　ち、ちよっと（止めようとする）

夫人　私はどこに居たのでしょうか。ここに居たのでしょうか。

フー　あ、あなた。とめて。

ムー　え、だって、そりゃあ、居たんでしょ。

夫人　60年、本当の絶望に向き合ってきたのか。この命は喜んでいいのか、長い年

月、自分は、この命を喜ばせてきたか！

ムー　奥さん、駄目ですって。

夫人　夫の女に子供が出来て、（フーのお腹を指し）産んだらおしまい、ジエンド！

フーのお腹に入れていた入れ墨のプリントシャツがずれる。

ハッとして押さえるフー。

なおも、泣きながら枯れ葉に埋もれた会長に石を投げつけるガリア夫人。

フー　（慌ててシャツを押し込みながら）奥さん、落ち着いて、やめましょ。この方は会長さん。ご主人じゃないんですから

ムー　いけないことですよ！　奥さん！　ちよっと。

夫人　家族のために生きてきました。子育てが私が生きる意味でした。人だから、鮭じゃないから、せめて、せめて我が子の行く末を。その幸せを。それなのに……。
（大きく首を振って）私は、知ってしまったのです。産み育てる絶望を！

門の奥、チャイムの音、教室の雑踏、子供の笑い声

ムー　ほら、子供たちが来ますって。子供が、未来が、来ますから。

フー　（お腹を支えながら）そうですよ。これから、ひとづくりしましょ。一緒に。ね。彼らは、私たちの希望なんですから。ちよっと、ね。

次々に見えない子供たちに泣きながら石を投げつけ始めるガリア夫人。見えない子供らの歓声、奇声上がる。再び石が飛んでくる。負けずに投げながら、

夫人 よーくお聞きなさい。あなた方は、まだ年端もいらない子供です。ですから私はこれを許します。でも、ここからが大事なのです。12年までの命を持つ子供たち。

見えない子供たちの逃げ惑い笑う声がピヨピヨ音にスライドして行く。笑い声だと思っていた声が、泣き声に変わって行く。

夫人 そうでしょう。わかります。人はみんな苦しいのです。絶望の中に喜びを見つけようと必死に生きて行くのです。それは生まれると同時に始まるのです。何故、石を投げるのですか？ 探すのです。そして、知るのです。自分が石を投げたその意味を！

最後に飛んできた石が、ガリア夫人の胸を打つ。息をのむフーとムー。覚悟を決めて封書をかざして、

夫人 皆さん！ 先ほど、私は、「絶望の果て検証委員会」の特設部会委員長に任命されました。

ムー オー。

トランクが倒れる（ピヨ）。目が覚めた感じのチャラ男

確かめるように枯れ葉に横たわる会長を揺さぶってみる。

夫人 気がつけとは言いません。想像してほしいのです。だって、想像や空想は、12年までの命を持つあなたたちの最も得意とすることではありませんか。（石をかざす）イメージしましょう！ この石の意味を！ 気持ちを。あのトランクの中身の行く末を。

会長を見つめ、その脇にゆっくりと膝をつくガリア夫人。

そして会長の頬をやさしくなでる。

夫人 鮭は、生まれた川をさかのぼり、産むためにだけ、傷ついて、死んで、わが子のために川にとけ、養分になるのです。

見つめるガリア夫人、頷くチャラ男

夫人 (ゆっくり起き上がりながら) 鮭じゃないから、人間だから。……せめて我が子が納税義務をはたせるまではと、(枯れ葉を払い) せつせと、必死に。我慢して。

再び怒りが蘇り、横たわる会長を足蹴にするガリア夫人、揺れる会長、枯れ葉が散る。のけぞるチャラ男

夫人 それでも、今じゃ、息子や嫁から毛嫌いされて。そう、毛嫌いされて！ 夫は、若い女を孕ませた。(フーのお腹を指さしながら) あの女の腹に、そう！ いるんです！

何故か泣きながら謝るフー

フー ごめん、なさい。

夫人 (息を戸整え、大きく首を振って) でも、気がつきました。いえ、本当はずっと気づいていたのです。人は、時の流れでしか、学べない愚かなひよこ。無心に、餌箱の角をつつくこのひよこたちと一緒です。この餌もいずれ、見栄に、肩書きに、欲になって行くのです。全ての餌は、気休めなのです。

トランクを抱えたチャラ男の手を引く夫人。

夫人 (女神のように) 行きませんか？ おばあさまに見せて差し上げたら？
チャラ ……。

ムー 駄目です。奥さん、それは、ひとづくりのための、

夫人 あのね、もうおわかりでしょう？ 何かのためなんて、無駄なんです。

ムー ……。

チャラ男を誘うガリア夫人、手を離し、首を振り断るチャラ男
再び、見えない子供たちに向かって勇敢に声を張って、

夫人 私は行かなくてはならなくなりました。私は今、嬉しいのです。あなた方の投げたこの石が私を行かせるのです。12年までの命が投げたこの石が、60年生きたこの命を行かせるのです。泳ぎ続けます。絶望という名の川を。そうです。生きることとは絶望し、覚悟することなのです。

チャラ男に深く頷き、門の方へしやなりしやなりと歩くガリア夫人
横たわる会長を揺さぶるチャラ男、何かに気づき怯える。

夫人 私は、人生の最後に素晴らしい任務を授かりました。余生を、この任務に捧げます。あなたたちのお陰です。ありがとうございます、そして、さようなら、12年までの命たちと、それ以外。さよならエブリバディ。

封書を胸に皆に一礼して門の中へ落ちるように消えていくガリア夫人。湧き上がる子供たちの奇声とピヨピヨ音。

夫人（声） ほ。ほ。ほ。ほー。（最後甲高い笑い声だけが響く）

沈黙

フー （深い溜息と哀愁）行ってしまったました。

ムー 申し訳ありません。

フー え？ なんで？

ムー 大丈夫です。私は、若い女なんかに興味ないですから。

フーのお腹に手を伸ばすムー

その手をびしやりと払うフー

ムー ……。

佐川会長、ボー爺になる

枯れ葉の山がごそごと動き出す。

息を呑む全員。

佐川会長がゆっくりと起き上がってくる。

フー あ、まあ、ご無事？ でしたの？

手を貸そうとするフーを止めるムー

一枚、一枚と上着やズボンをゆっくり脱いでいく佐川会長

全員 ……。

やがて、パッチとステテコ姿になった地元の名士、佐川会長、街の坂を知り尽くしたその男は、赤い腹巻でにッと笑う。

奪い返したトランクを落としてしまうムー（ピヨ）

にッと笑ったその人は、歯が真っ黄色、ボー爺である。

全員 ……。

チャラ男の手からこぼれた百円玉が、一つ転がってくる。
摘み上げるボー爺

全員 ……。

ボー爺 (しゃがれ声) おおきに。

トランクを手に持って門の中へ行こうとするボー爺

ムー ……待って、待ってくれ。

ボー爺立ち止まり振り向く。(股間を触っている)

ムー (チャラ男に) そうなのか？

チャラ ……。

ボー爺 ……。

チャラ そ、それ、お、俺んだ。

ボー爺 ……。

チャラ 返せよ。

ムーを振り切り、トランクを取りに行くチャラ男

じつと見つめ合う二人

いきなりボー爺の股間を握るチャラ男

間

ボー爺 はーん、あん時の

泣きながら掌の匂いを嗅ぐチャラ男、いきなりボー爺に平手打ちをする。

間

ボー爺 へ、ボーか。

チャラ ……。(泣きぬれる)

真っ黒な爪の先、拾った百円玉を見つめるボー爺、全員が、その指先に集中する。

ボー爺 まあな、裏と表、そういうことや、どっちも一緒や。

泣きながら、こぼれていた百円玉を集めて、財布ごとボー爺に握らせるチャラ男。にツと笑うボー爺

ムー おい、教えてくれ。

トランクを開けるボー爺（ピーヨ、ピヨ） 見えない何かを握って、チャラ男に渡そうとする。

チャラ （首を振って断る） 悲し、過ぎる。

ムー それ、連れていくのか？

見えない何かを戻し、トランクを閉める。（ピヨ） 頷くボー爺

チャラ それ、子供の未来に、必要なんだ。

ムー ……。

トランクに貼られた認定証を剥がし枯れ葉に散らすボー爺

ムー ……。

ケケケと笑うボー爺

ボー爺 あるんか？ 未来。

チャラ ……。

ケケケと笑うボー爺

ボー爺 兄ちゃん、次がのうても、喰わにややれん。

チャラ ……。

ボー爺 わし、予感しかないねん。

チャラ男を心配そうに見ているフー、ムーの服を引っ張る。首を振るムー。
石柱の門に手を掛けるボー爺

ボー爺 みんな、一緒や、……生きてただけや。

間

チャラ すてるな。

ボー爺 ……。

チャラ すてるな！

ムー ……。

ボー爺 ほな。

トランクと門の中へ落ちて行くボー爺

チャラ (泣き叫ぶ) 行くなー！ 連れてけ！

ボー爺の後を追ひ、門の中へ飛び込んでいくチャラ男

枯れ葉が風に舞ひ、チャラ男の泣き声とピヨピヨ音が響く。

つながり続く明るい未来

一人、枯れ葉のロータリーを歩き始めるフリー、枯れ葉を踏んでいる。枯れ葉を踏む音というのは、全ての何かを浄化する音でもあり、生み出す音でもある。足の裏で、形あるものを崩す、崩してもいいものを崩す楽しみに浸るフリー

ムー (フリーに暖かい眼差し) 気持ちいいですか？

フリー えー、こうして歩けば、平らになります。あ、アメリカフリー。

ムー あの、

フリー え？ 桜だけかと思ってました。何？

ムー いえ、

フリー 気分がいいです。ほら、色々出てくる。

枯れ葉の中、封書を拾いあげるフリー、ムーに渡す。
目を通すムー

フリー 忘れ物？

ムー 彼のです。

フリー あ、実です。メタセコイアの。

暖かく微笑むムー

ムー ずーっと。

フリー ん？

ムー ずーっと気になっていることがあるんです。

フリー ふーん……。何でしょう。

ムー 気分が悪いと死なないのですか？

枯れ葉を踏むフー

フー ……。頑張るんですって。人は、気分が悪いと。
ムー ふーん。

帰り支度を始めるムー

椅子の下に引いていたひざ掛けを手取るフー

フー 頑張って、気分がよくなるようにするんです。

ごそごそと、膝掛けをお腹に押し込もうと頑張るフー

フー そしたら、気持ちもよくなって、

ムー 大丈夫ですか？

フー 力が生まれるんです、体の中から。…。蘇るんです、色々。

ムー あまり、無理しない方が。

フー (頷く、息が荒い) 大丈夫。頑張れば、

ムー ……。

上手いこと入れ墨のプリントシャツと、膝掛けをお腹に納めて、ご機嫌のフー

フー ふふ、アー、いい気分。しあわせ、ほら。

ムー ……頑張りました。

大きく頷くフー

丸々と膨れたお腹を幸せそうにさする二人

門の奥からチャイムの音、教室の雑踏、机や椅子を引く音、子供たちの声。久しぶりにゆっくり微笑み合う二人

ヨレヨレの風体のチャラが、門の奥から坂を上ってくる。空っぽのトランクを引きずっている。倒れて、泳ぐように這いつくばって、枯れ葉を掻くように二人の前まで進んで来る。

フー あら、良かった、おかえりなさい。

ムー (微笑ましく) ほら、要るだろ、忘れモンだ。

目の前に投げられた封書に気がつき、読みふけるチャラ男
見る見るうちに顔に、生気が戻る。封書を握り、歩こうとするが歩けない。

二人のことは見えていないのか、門の方を振り向き、また前を見て独り言のように、

チャラ つながり、続く、

フー え？

チャラ 明るい未来！

フー まあ。素敵！

チャラ イイン、カイ！ イイン！

ムー（ふざけて頭を下げる）よろしくお願いします。

フー ふふ。

ムー そのまま行けばいい。ザーっと。ザーっと。

フー（お腹をさすりながら）そうなさい。ええ、浮くように、泳ぐように。潜るように。

チャラ まだ、

フー まだ？

チャラ まだ、生きて、みたい！

どこかの坂へ泳ぐように消えていくチャラ男を見送る二人

空のトランクを閉じるムー。トランクを持ち上げようとすると、ポケットから申請書が落ちる。顔を見合わせる二人。

ムー さあ、行きますか。

フー（頷いて）……どこに？

ムー ……。(肩をすくめる)

フー ここは、私たちの場所でした。

ムー 見渡せるけど見当たらぬ。

フー（門の奥を気にして）この先はまだ坂ですか？

ムー えー、そのようです。

フー ねえ、オオサンショウウオに足って、……あ。

ムー え？

フー 来た？

ムー え？

しゃがみ込むフー、おろおろと慌て出すムー

ラマーズ法の声（ヒ、ヒ、フー）が、こだまして、ピヨピヨ音にスライドしていく。門の奥から子供たちのランドセルを揺らす音

そして子供たちの彩り豊かな笑い声がロータリーに響き渡る。

【完】

* 「ひとづくり革命」は、政府の人生100年時代構想会議における「人づくり革命基本構想」からイメージしました。